

経営比較分析表（平成28年度決算）

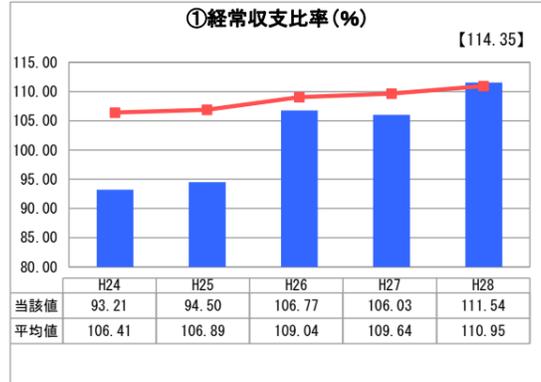
埼玉県 三芳町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	63.56	99.80	2,133	

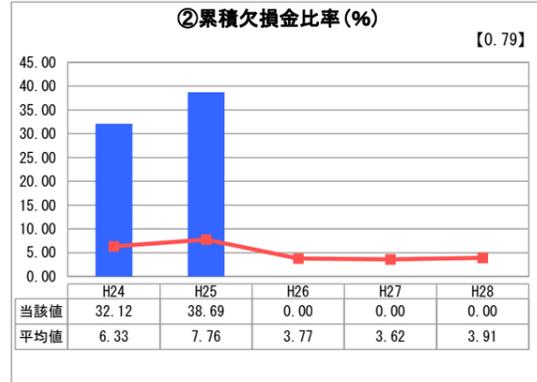
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
38,243	15.33	2,494.65
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
38,252	15.30	2,500.13

■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成28年度全国平均

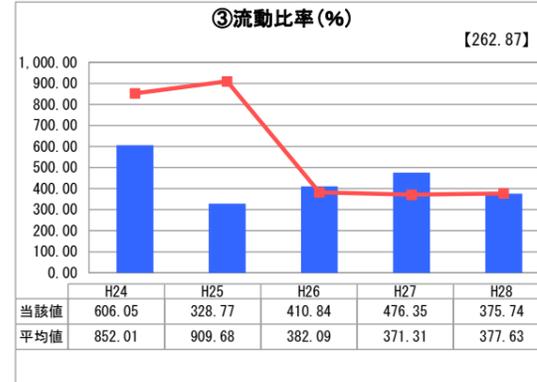
1. 経営の健全性・効率性



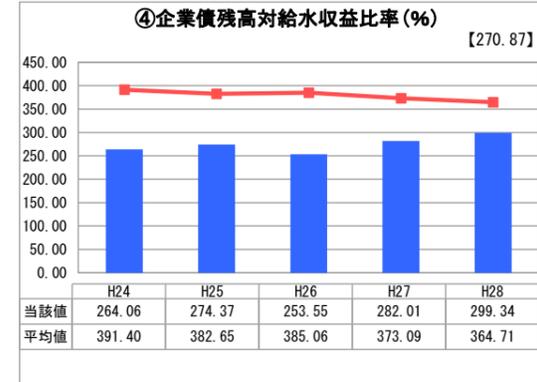
「経常損益」



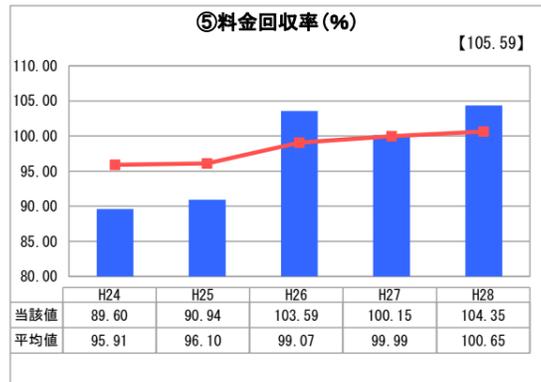
「累積欠損」



「支払能力」



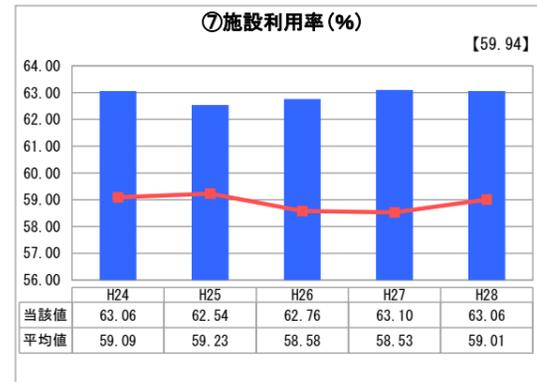
「債務残高」



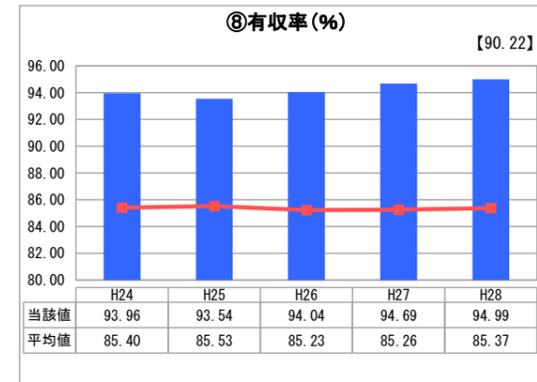
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

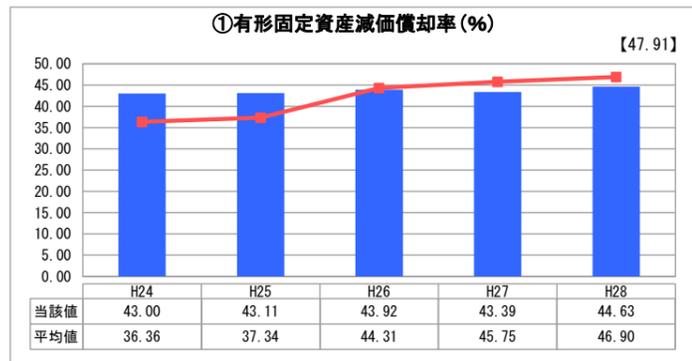


「施設の効率性」

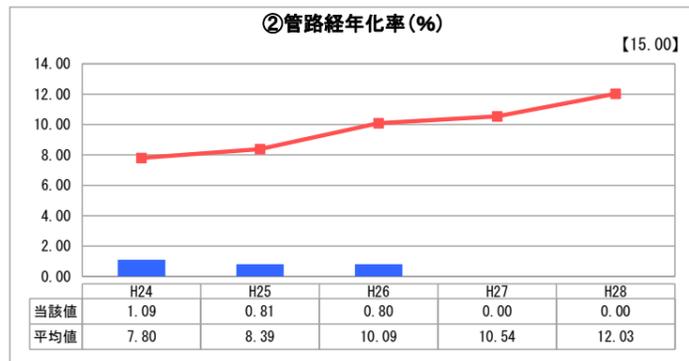


「供給した配水量の効率性」

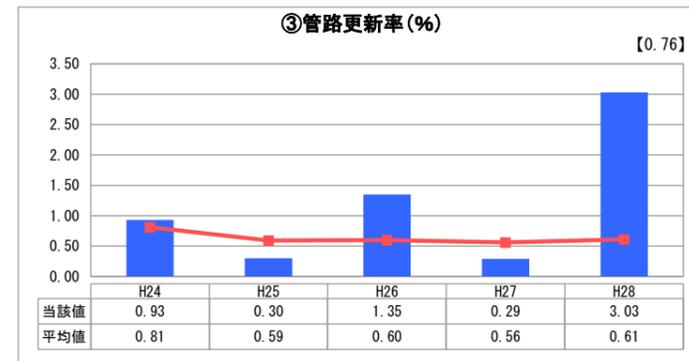
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【健全性】
 経常収支比率は、昨年同様、黒字を維持している。給水収益は昨年より増加し、給水原価については経常費用を抑えることができたことで減少しており、それによって料金回収率も上がり、類似団体との比較において現状では健全性を保っているといえる。流動比率においては安定して300%以上を維持しており短期債務支払い能力を保有している。一方で施設整備資金確保のために企業債残高比率が増加しており、今後も施設の更新では起債によりこの比率の上昇が見込まれる。施設更新費用の財源確保のためには、引き続き費用削減に努める必要がある。

【効率性】
 施設利用率、有収率は類似団体の平均値を上回る水準であり、適正な施設規模にて安定供給している。有収率については、漏水やメーター不感水量以外にも水質維持のため不可欠な管洗浄等による水量にも影響を受けるため、引き続き維持管理の効率向上に努め料金回収率に反映させていきたい。

2. 老朽化の状況について

現状では、有形固定資産のうち法定耐用年数を経過した資産は類似団体と比較しても多くない。しかしながら、一部の地域において法定耐用年数を10年以上経過しながら腐食による漏水被害があった。この地域は、液状化が予測されている地域でもあるため更新時期を早め、平成35年度までの計画で配水管の更新を進めている。また、配水管以外の資産としては浄水場の浄水施設及び配水施設更新が完了し、機械・電気設備である中央監視設備更新も平成29年度に完了する。今後においては、非常用自家発電機の更新に向け、平成30年度に基本実施設計に入り、平成31・32年度の2カ年で更新する予定である。

全体総括

各指標の値を類似団体と比較すると、健全経営を保持していると言える。しかし、浄水場施設整備費や配水管の更新など、経費は今後も増える見込みであり、人口減少や施設の老朽化等経営環境が厳しさを増すなかで、サービスの安定的継続提供を行うために一層の経営健全化に努めていく。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。